

# 平成29年教育委員会第9回臨時会会議録

開会日時 平成29年10月30日 午前 10時00分

閉会日時 同 上 午前 11時10分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 塩澤 雄一  
同職務代理者 齋藤 初夫  
委 員 塚 本 亨  
委 員 天 宮 久嘉  
委 員 日 高 芳一  
委 員 大 里 豊子

## 議場出席委員

・教育次長	駒井 亜子	・学校教育担当部長	平沢 安正
・庶務課長	杉立 敏也	・学校施設課長	青木 克史
・学校施設整備担当課長	忠 宏彰	・学務課長	鈴木 雄祐
・指導室長	中川 久亨	・学校教育支援担当課長	柿澤 幹夫
・統括指導主事	塩尻 浩	・統括指導主事	大川 千章
・地域教育課長	山崎 淳	・生涯学習課長	小曾根 豊
・生涯スポーツ課長	倉地 儀雄	・中央図書館長	鈴木 誠

## 書 記

・企画係長 富澤 章文

開会宣言 教育長 塩澤 雄一 午前 10時00分 開会を宣する。

署名委員 教育長 塩澤 雄一 委員 齋藤 初夫 委員 塚本 亨  
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

開会時刻 10時00分

**○教育長** おはようございます。それでは出席委員が定足数に達しておりますので、平成 29 年教育委員会第 9 回臨時会を開会したいと思います。

本日の会議録署名は私に加え、齋藤委員と塚本委員にお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

それでは議事に入ります。本日は議案が 1 件、報告事項等が 7 件、その他が 3 件でございます。

それでは議案第 44 号「葛飾区立西小菅小学校一部改築・改修のための基本的な考え方」について上程いたします。

学校施設整備担当課長。

**○学校施設整備担当課長** それでは議案第 44 号「葛飾区立西小菅小学校一部改築・改修のための基本的な考え方」について、ご説明いたします。提案理由でございますが、葛飾区立西小菅小学校一部改築・改修のための基本的な考え方を策定する必要があるため、本案を提出するものでございます。

別紙として添付してございます「葛飾区立西小菅小学校一部改築・改修のための基本的な考え方」につきましては、過日行われた 9 月 1 日の教育委員会におきまして「葛飾区立西小菅小学校一部改築・改修のための基本的な考え方 (案)」としてご報告させていただきました。その後、9 月 13 日には区議会文教委員会にて報告、また 10 月 10 日には西小菅小学校近隣住民の方への説明会を開催し、ご意見を伺ってまいりました。説明会の際、近隣の住民の方からは工事中の安全対策等、近隣への影響に関するご質問などがございましたが、基本的な考え方の内容や改築工事そのものに反対するご意見はございませんでした。

この結果、今回議案として提出いたしました「葛飾区立西小菅小学校一部改築・改修のための基本的な考え方」につきましては一部表現の修正は行いましたが、先の教育委員会でご報告いたしました「基本的な考え方 (案)」から項目や内容に影響を与える変更箇所はございませんので、内容の説明は割愛させていただきます。

議案第 44 号「葛飾区立西小菅小学校一部改築・改修のための基本的な考え方」についてのご説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

**○教育長** それでは、ただいまの件につきましてご質問、ご意見等ありましたら、お願いいたします。

塚本委員。

**○塚本委員** 質問ではないのですが、今、学校施設整備担当課長から説明いただいたとおりでございます。基本的な案は既に私どもも拝見させていただいていますし、文教委員会を経てまた説明会等、ただ、前回にもちょっとお話したのですが、特に昨今 2 週続いた台風 21 号、22

号、その地域性を鑑みますと、昨年の台風でフェンスが決壊したという歴史がありますのでその辺と、学校が災害拠点になるのだということもあわせて、これからも進捗しながら十分配慮していただければというお願いでございます。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは特にないようですので、お諮りいたします。議案第44号について原案のとおり可決することにご異議はございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長 異議なしと認め、議案第44号については原案のとおり可決といたします。

引き続きまして報告事項等に入ります。報告事項等1「平成29年度全国学力・学習状況調査の実施結果について」をお願いします。

指導室長。

○指導室長 それでは「平成29年度全国学力・学習状況調査の実施結果について」ご報告させていただきます。小学校6年生では国語・算数、中学校3年生では国語・数学の調査が行われました。また生活習慣や学校環境等に関する質問・調査も行われました。

本調査の内容は主に知識の定着状況を確認するA問題と活用状況を確認するB問題があり、Aは基礎、Bは応用と捉えることができます。実施結果につきましては1ページに調査の概要、2ページに学力調査に関する葛飾区と全国、東京都の平均正答率結果、3ページに学習状況調査の中の生活調査の抜粋を示させていただきました。

初めに小学校についてご説明いたします。2ページをごらんください。国語AB、算数ABともに全国平均をやや下回っておりますが、算数は昨年度よりも差を縮めております。これはチャレンジ検定等を通して基礎、基本の定着が図られてきた成果であると捉えております。

次に各教科の状況について申し上げます。4ページをごらんください。国語Aです。具体的な結果からは、ことわざの使い方の例として適切なものを選択する問題、漢字の読みなどについて高い正答率でした。特に「希望」を漢字で書く問題では全国、東京都の平均正答率を上回りました。一方、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、話し合う問題については課題が見られました。

国語Bです。目的や意図に応じ、適切な言葉使いで話す問題や目的に応じて、文章全体の構成を考える問題などで高い正答率でした。一方、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉使いで自分の考えを話す問題などに課題がありました。

続きまして、算数Aです。少数と整数の加法の計算や加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題では全国、東京都の正答率を上回り、高い正答率でした。割り算の答えを分数で表す問題などに課題がありました。

算数Bです。ある目的に適したグラフを選択する問題や基準量、比較量、割合の問題を捉え

る問題などについて高い正答率でした。一方、示された式の中の数があらかず意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ問題に課題がありました。

続きまして中学校についてです。2ページにお戻りください。国語AB、数学ABともに全国平均を下回っておりますが、数学においては全国との差が縮まり、数学における学力が伸びていると捉えております。小学校と同様、チャレンジ検定等を通して基礎、基本の定着が図られてきた成果であると捉えています。各教科の状況におきましては7ページをごらんください。

国語Aについてです。見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する問題や漢字を書く問題では高い正答率でした。特に「延期になる」を漢字で書く問題では全国、東京都の平均正答率を大きく上回っております。一方、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する問題などに課題が見られました。

国語Bです。比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問題やスピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す問題などに課題が見られました。

続きまして数学Aです。一元一次方程式では高い正答率となりました。特に分数の掛け算、平行移動した図形を描く問題、見取り図にあらかされた立方体の面上の線分の長さの読み取る問題では全国、東京都の平均正答率を上回り、高い正答率になっています。分数の掛け算、一元一次方程式については中学校数学のチャレンジ検定で出題されており、各校の取り組みが成果となってあらわれてきたと捉えています。一方、反比例の表から比例定数を求める問題等に課題が見られました。

続きまして数学Bです。証明した事柄を用いて、新たな性質を見出す問題や資料から必要な情報を適切に読み取る問題では高い正答率でした。与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、事象に即して解決する問題や資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題に課題が見られました。

続きまして生活調査についてです。3ページをごらんください。家で学校の授業の予習をしているにおいて、小学校、中学校とも全国、東京都のポイントより上回っております。また、家で学校の授業の復習をしているにおいては、小学校では東京都よりも、中学校では全国、東京都をよりも高い数値となっております。今後も家庭学習の進めを活用した家庭学習のさらなる充実を推進してまいります。

授業の初めに目標が示されているにおいて、小学校、中学校ともに全国、東京都、さらには昨年度の葛飾区を上回っており、9割を超えています。授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っているにおいて、特に中学校では全国、東京都、昨年度の葛飾区を上回っております。葛飾教師の授業スタンダードに積極的に取り組んだ成果のあらわれと考えております。

小学校、中学校ともに学習時間、読書時間、規範意識、自己肯定感の調査項目はまだまだ課題があると捉えております。

指導室といたしましてはチャレンジ検定、かつしかっ子学習スタイル、葛飾教師のスタンダードの推進による成果と考えており、成果のよかった学校の指導方法を分析し、他校に広めるとともに、各学校に対する支援策や学力向上対策を充実させてまいります。さらに教員の授業力向上に向けた研修内容の改善につなげ、本区の学力を向上させてまいりたいと考えております。

説明は以上です。よろしくお願いたします。

**○教育長** ただいまの説明について、何かご質問等ございますか。

大里委員。

**○大里委員** 質問調査の中で、中学校の予習の数値がもう少し上がるといいと思います。やはり英語や古典などは、自分も予習が必要でやっていたという記憶があります。でも回答する生徒さんも捉え方の差で、回答にも差が出てくるところもあるかなと思います。毎日やって自信を持って回答する子と、そんなにやってないなと思って回答する。やはり多少差は出てくるのかなと思います。

それからやはり読書の時間ですが、もう少し上がってくれるといいなと思います。家庭への啓発も必要だと思いました。保護者として少し反省点を感じます。

**○教育長** ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

齋藤委員。

**○齋藤委員** 小学校は結構成果が出ていると感じました。中学校は全体的に、もう少しかなという感じがします。この取組みをはじめて小学校で結果が出てきていますから、タイムラグで中学校でも結果が出るようになると思うのです。今、小学校で取組みの成果が出ている子どもたちが中学生になるわけですので、この取組みは、基本的に丁寧に、さらに進めていただくことが、将来の中学校の成績にあらわれるように期待していますので、よろしくお願したいと思います。

**○教育長** そのほか、いかがでしょうか。

塚本委員。

**○塚本委員** 今、齋藤委員がおっしゃったのですが、やはり今までの抽出の方法、特に1ページ目の調査の方式について、平成19年から21年度はしっかり調査を全校対象におやりになって、当委員会としてまた指導するに当たっての経緯がこの平成25年度、今回に至るまでのしっかり調査をされたというのが、この背景にあるかと思うのです。

それはやはり今くしくもおっしゃったのですが、2ページにあります対前年比で、小学校で非常に努力をしてコンマ台の差になってきている。都平均に近づいているのですが、中学校はその努力がちょっと足りないのかなと。その辺はやはりこれからの大きな課題として、それとその背景としてはやはりスタンダードの徹底と習慣づけ、特に家庭内の協力というのはやっぱ

り欠かせないのかなと思いますね。

だから、逆に先ほどちょっと触れましたけれども、授業の最後の振り返りの問題、それから家庭学習の問題がここまで質問時の調査から出るのであれば、もうちょっと中学校の表にも反映してほしいと思います。その整合性はやはりどこかでポイントにして、詰めていただければと思いました。

以上です。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

天宮委員。

○天宮委員 感想ですけれども、学校での授業の予習については、本当に数字はいいですし、例えば読書についても、全国、都より下回っていると言いますけれども、基本的に全国と都も低いわけではないですか。それを考えると今の時代だからある程度、低くなっているのかなと思います。それから、規範意識にしても下回っているとはいえ、それももう微々たる差ですよ。そういう意味では非常によくやっているのではないかと思います。

自己肯定感についても数字ではちょっと少なくなっていますけれども、学校に行くのは楽しいと思う。これだけのパーセンテージが「行きたい、楽しい」と言ってくれているのだから、いいのではないかなと、すばらしいことではないかなと思っております。

他区との競争とか、都との競争とかとなると、また話は別になってしまうのですけれども、十分、みんな子どもたちは楽しく過ごしているのではないかと考えております。

○教育長 ありがとうございます。

日高委員。

○日高委員 1点は生活習慣、学校環境等の調査についてですが、今もご意見が出されておりましたけれども、本区の授業スタンダード。これに対応した項目等では、やはり成果が出ていると思うのです。全ての学校が区の方針に従って、しっかりやっているというそのことのあらわれだと思います。だからこそ、授業の始めにしっかり目標を、めあて、ねらいを示されているという成果が出ている。これは大いに誇っていいことではないかと思います。

それから、全国、あるいは都を上回るものも表記されています。特に小学校、このあたり見てもそんなふうに感じます。

それから本題は教科に関する調査です。これは単なる東京都と比べるのではなくて、全国との差がこのようになっているのです。非常に近い、努力している様子も実によくわかります。そしてその差も非常に縮まっているのですけれども、逆に東京都と比べるとどうなるのかという。これも大事だろうと思います。学校の目標を立てるときに、全国と比較し、そして東京都と比較してどうなのかという視点も大事になろうと思いますので、そういう分析の仕方もある必要があるかと、こんなふうに感じました。

以上です。

○**教育長** では私から。この結果ですが、一つ知っておいてほしいのは、これは平均正答率なのでですね。これ、「平均正答数」とあるのです。大体問題が15から20くらいの間なのですけれども、差が全国で言うと、これは0.1なのです。正答数が0.1ってどういうことかという、10人のうちあと1人、問題が一つできていけば、全国平均に行くということなのです。そんな差なのでですね。これは小学校の全部がそうなのです。差が0.1なのです。それを百分率にするとうような結果になってしまう。

だから、そういう差をしっかりと、頑張っていることを伝えていきたいと思うのと、一つ指導室に教えてほしいのは、成果の出ている学校があるのですよね。ものすごく頑張っている学校が小学校もあるし、中学校もある。その学校は何をやっているのか。それを広めないと、全体の成績というのは上がっていかないわけで、ぜひ、何をやっているかを教えてほしいと思います。

指導室長。

○**指導室長** 上がっているところというのは、まず聞き取りをしましたところ、全国学力にしる、この後ご説明をさせていただく「東京都児童・生徒の学力向上を図るための」にしても、両方とも東京都から出ている「東京ベーシック・ドリル」、そちらのほうの活用というのは非常に頻繁にされているということが、成果が上がっている学校の一番の共通点でございます。

要は、東京都から出ているその東京ベーシック・ドリルについては短時間で集中的にできるということで、それを朝学習の時間とか、それからちょっとした授業が始まる前に行っているということが共通していることで、話がございました。そんなことも広めてまいりたいと考えています。

○**教育長** それは小学校も中学校もですか。

○**指導室長** はい。

○**教育長** 「ベーシック・ドリル」というのはデータで東京都が出しているのですが、本区では冊子にしているのですよね。だから、そういうものの活用は有効だということで奨励してください。よろしくお願いします。

大里委員。

○**大里委員** 済みません、つけ加えさせてください。

家庭学習時間1時間以上、読書の時間30分以上という質問なのですけれども、多分時間的には個人差がかなりあるのだらうと思います。またそれは次の課題かと思えます。多い子と少ない子がいると思います。

○**教育長** その辺の指導をしてほしいということですね。よろしいでしょうか。

それでは報告事項等1を終わります。

続いて報告事項等2「平成29年度東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査の実施結果（速報値）について」をお願いします。

指導室長。

○指導室長 それでは「平成29年度東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査の実施結果（速報値）について」ご報告させていただきます。

本調査は7月6日に実施されました。小学校5年生、中学校2年生の全員を対象としまして、小学校では国語、社会、算数、理科。中学校におきまして国語、社会、数学、理科、外国語の5教科でございます。学習指導要領に示されている目標や内容に基づいた事項と読み解く力に関する事項について、調査しております。

2ページにあります「5 各教科平均正答率」は、小学校、中学校の平均正答率の3カ年比較となっております。3、4ページにあります「6 小学校正答数分布」、「7 中学校正答数分布」は、葛飾区の小中学校の正答数分布と東京都の正答分布の人数で25%ごとに上位からA B C D層として示した資料でございます。

3ページのグラフをごらんください。小学校国語を例にとり、このグラフの見方について、ご説明させていただきます。棒グラフの横軸は回答数で、国語の場合は20問あることがわかります。都の平均正答数はこのグラフの上にあります13.6問であり、本区は13.2問でした。また「都52.1%」というのは、東京都の平均正答数13.6問よりも正答数が多かった本区の児童数の割合を示しております。

また、A・B・C・D層にそれぞれ示されておりますプラス、マイナスのポイントですけれども、昨年度の本区のポイントとの比較であり、国語に関して言えば、昨年度よりもA層が1.2ポイント減り、D層が1.7ポイントふえたと見ることができます。

このようにごらんいただきますと、小学校は、国語のみ昨年度と比べてやや落ちておりますけれども、他の3教科、また4ページの中学校全5教科においては、A層がふえ、D層が減少しておりますので、下位層が全体的に減少していると考えて、捉えております。

5ページの「8 東京都25%」ごとの葛飾区との比較は、昨年度と今年度の層ごとの分布について、比較した資料でございます。6ページ「9 A層・D層の変化」は、各教科ごとのA層・D層の割合の3カ年における変化をグラフであらわした資料でございます。

7ページ、「10 分析」についてご説明いたしますが、6ページをごらんになりながらお聞きいただければと思います。

小学校では国語を除く3教科において、D層が3年連続で減少しております。特に国語と理科において、D層では25%を下回っており、個に応じた指導の成果があらわれております。また国語を除く3教科でA層の増加が見られ、特に理科ではA層が30%を上回っております。また全ての教科で東京都の平均正答数を上回っている児童が50%を超えており、上位層における



成果もあらわれてきております。

続きまして、下段の中学校についてですけれども、全ての教科でD層が減少しております。特に英語を除く4教科では、3年連続でD層が減少しております。また社会では、D層が25%を下回っております。小学校、中学校ともに、全体として東京都の平均正答率よりは下回っておりますが、教科によっては東京都との差が縮まっております。

一方、課題についてです。小学校の社会、算数、中学校の国語、数学、理科、英語でD層が25%以上となっております。全体的にD層の割合は減少してきたものの、依然として課題があります。引き続きチャレンジ検定を活用した指導の徹底、葛飾教師の授業スタンダードをより一層推進し、基礎、基本の定着を図るよう指導を行ってまいります。

7ページをごらんください。「11 今後の取組み」としましては、東京都からの結果の正式発表後、問題ごとの分析を行い、チャレンジ検定の問題に反映させるとともに、さらに葛飾教師の授業スタンダードの推進をしてまいります。また、今回の結果をもとに各小中学校で分析し、授業改善推進プランをホームページに掲載することで、学校、家庭、地域が一体となって児童・生徒の学力向上を図ってまいります。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

**○教育長** ありがとうございます。それではただいまの説明について、何かご質問ございますか。

日高委員。

**○日高委員** 3ページ、4ページをちょっとごらんいただくとわかると思うのですが、小学校を見ると、中心よりも右のほうが多くなっている。これは非常にいい曲線だと思われませんか。棒グラフで右のほうが多いということは、A層、B層が多いということですから、大変いい傾向ではないかなと。D層を見ると非常に少ないですね。この底上げが大事だろうと思います。こういう分析をして、やはりD層、C層をどう指導して、この上に上げていくかという、こうしたあたりをぜひ各学校では取組んでいただきたいですね。

同時に、中学校についても同様であります。中学校はどちらかというと中心が多くなっています。山型の山の一番てっぺんが大体B層、C層の間になっているのです。ですから、そういう意味では、A層をふやしていくためにも、D層、C層をやはりもっと右のほうに進めていただくように指導していくことは大事だろうということです。

それにしても、分析から努力をしていることが大変見られますので、これは評価して認めながら、今後、さらに本区の教師の授業スタンダードを周知徹底していくような、そういう方向に持っていかれるといいのではないかなと、ぜひ期待したいと思います。

以上です。

**○教育長** 塚本委員。

○塚本委員 今、日高委員が集約してお話しいただいたのですが、先ほど指導室長から説明いただいた6ページ、7ページに一番注目したのです。特に各小学校にしても、中学校にしても、教科別で対前年比、27年から29年を比較した棒グラフを掲示してあります。

特にその中でA層の増加傾向とD層の減少傾向、これは非常にありがたいことだと思います。

その反映をやはり統括主事に今後の取組みにさせていただきたいと思います。また、スタンダードの評価という部分でご提案いただいたのですが、それともう1点お願いしたいのが、これは速報値ですけれども、各校には最終的に校長のもとに情宣されますね。それを見ますと、逆に今度は中学校の校長先生を介して「小学校ではこういうデータが出たんだよ」ということと、その辺の情報の共有と、やはりどちらかでインパクトを与えないと、そこでは「こんな頑張っていて、D層が減っているんだよ」と、「25%切ったんだよ」と。そうであれば、では「これだけ自信持って送ったのだから、では中学校はもっと頑張ってくれよ」というような、何か材料になるといいかと思います。

先ほどのご報告事項でございましたけれども、やはり小学校で頑張っている、中学校になると何で学力が落ちてしまったのかなという部分がありますので、やはり小中連携して、情報の共有のさらに有効な活用をお願いできればと思います。お答えは結構です、要望です。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 この正答数分布というのは、これまで毎年こういった数値のデータを出して、検証しているということですか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 こちらの正答数分布につきましては、昨年度からこのような形でやり始めました。

○齋藤委員 それから、これは葛飾区トータルのデータですが、各学校ごとにこういうデータを同じように処理はされているのですか。

○指導室長 各学校ごとではここまでやってございません。全体のデータだけです。ただこれについては、このような全体のデータとしては、校長会等で各校長、副校長にはお見せする予定です。

○齋藤委員 例えば、指導室で学校ごとのデータは把握しているのですか。

○指導室長 学校別のデータは、全体だけでなく指導室にも全部まいます。

○齋藤委員 この形でですか。

○指導室長 いえ、これは本区で特別に、指導室で独自に作成したものです。

○齋藤委員 先ほどの報告にもあったように、要するにこの速報値にはすごく頑張っている数値が出ているデータですよ。そうすると各学校ごとにこのデータを作ると、頑張っている学校の数値とあんまり変わってない学校の数値が、はっきり出てくるのではないかと思うのです。

そうすると、例えば頑張っている学校というのは、ベクトルとして頑張って、結果が出てき

たのですから、区内の各校長先生に、こういう取組みをした結果よくなったのだよということを共通認識にして、情報をみんなで共有するという事は、非常に今後効果があると思うのです。

ですから、指導室でこのデータをそういうふうに変換して、頑張っている学校が見えてきたら、その学校の取組みを他の学校にも周知できるような、仕組みを考えてほしいのです。それは絶対必ずいい効果が出てくるだろうと思います。

○教育長 指導室長。

○指導室長 今、委員ご指摘のとおり、これらを各学校に反映したものをデータ分析して、より具体的なものを校長及び副校長に、周知できるように、こちらのほうで努めたいと思っております。

○齊藤委員 よろしく申し上げます。

○教育長 ではぜひお願いします。そのほかいかがでしょうか。

天宮委員。

○天宮委員 もちろんこのA層がふえ、D層が減少していることはすばらしいのですが、子どもたちは、基本的には学校だけで勉強しているわけではないのではないですか。そうすると、先ほどの生活習慣ともかかわりますけれども、塾に通っているという子どもは、例えば各学校では把握されているのですか。A層の子は行っているでしょうし、D層の子も恐らくついていくために行っているのだと思うのですけれども。

○教育長 指導室長。

○指導室長 恐らくですが、子どもが塾に行っている、また、大体何時から何時ぐらいで週何回ぐらいということは、担任は把握していると思われま。

それを学年で集めたりとか、それを校長に伝えているかどうかというのはちょっと不明なのですが、まず学年間の中では大体把握しているものと思います。

○教育長 どうでしょうか。よろしいですか。

それでは報告事項等2を終わります。

引き続きまして、報告事項等3「平成29年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の実施結果（速報値）について」をお願いします。

指導室長。

○指導室長 それでは「平成29年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の実施結果（速報値）について」ご説明させていただきます。

本調査は小学校1年生から中学校3年生までの児童・生徒を対象として、体力・運動能力調査と生活・運動習慣等調査を行っております。また各学校の取組みに対する質問紙調査も実施しております。

今回の速報値が発表されたのは、体格及び体力・運動能力調査に関する調査についてです。資料の2ページは今年度の調査結果、速報値ですけれども、速報値と今後の対策についてお示ししたものです。体力・運動能力につきましては、まず全体として、体力合計点の結果を申し上げます。2ページをごらんください。

表の一番右端にあるのが体力合計点です。注釈にありますように、網掛け部分は東京都の平均を上回った項目であり、男子は小学校1年、2年、3年、5年、女子は小学校1年生から6年生までの全ての学年で、東京都の平均を上回りました。

また、体力・運動能力種目別平均につきましては、握力、上体起こし、20メートルシャトルラン、立ち幅跳びでは半数以上の学年が、東京都の平均を上回りました。特に昨年の課題であった20メートルシャトルラン、立ち幅跳びについては今年度、都の平均を上回る学校がふえ、徐々に各学校の取組みの成果があらわれてきております。

本区では、現在「かつしかっ子チャレンジ(体力)」の取組みを推進しており、小学校では縄跳びや持久走に取り組むことで全身持久力を高めております。また、跳力や投力を高めるために休み時間を有効に活用し、立ち幅跳びや投げる運動を行う機会をふやしております。

また中学校では、保健体育の授業の中で、補強運動として体幹を鍛える運動を設定し、基礎的な体力を身につけることを目標として、取り組んでおります。

こうした取組みを粘り強く継続したことで、今年度の20メートルシャトルランの結果に見られるような全身持久力の向上につながっていると考えられます。

一方、中学校の持久走及び50メートル走、ソフトボール投げ及びハンドボール投げにつきましては都の平均に近づけることが課題です。今後の対策といたしましては、児童・生徒が日常的に運動に取り組めるようにより一層「かつしかっ子チャレンジ(体力)」の取組みを推進してまいります。また、教員の実技研修会を通して指導力の向上を図るとともに、運動量を確保した授業改善に今後も取り組んでまいります。

説明は以上です。よろしく願いいたします。

**○教育長** ただいまの説明について、何かご質問、ご意見ありますか。

大里委員。

**○大里委員** この表を見ますと、ちょっと目につくのが中学校の長座体前屈と反復横跳びが男女とも、それから中学の女子の立ち幅跳びが、全学年で東京都の平均より低いことが目につきました。

ただ、その数値の差がとりたてて大きいというわけではないのですが、やはりそのあたりがちょっと弱いところなのかなと思いました。

やはりたびたび上がっていることですから、あとは投げるということですね。そのあたりが相変わらず課題かと思います。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

塚本委員。

○塚本委員 これは総数としていただいておりますので、例えば中学校で24校ございます。そうしますと、この背景になっているのは各集合体としての総数ですか。

その辺、もし資料提示ではなく、指導室長がごらんになった部分で、多分、その学校の、中学なら中学の特徴があると思うのです。

例えばいろいろな記録大会などでも突出した中学校もございましょうし、そういった部分でもしどこかで潜在的に見られるものが見つければ、先ほどの話ではないのですが「この学校ではこういうノウハウがあって体力がついているんだよ」とか、その辺の情報があれば、また校長会などで、共通の認識にさせていただくとよろしいのではないかと。その集合体の数値としての都平均でございましょうから、多分、その24校にはばらつきがあるのかなと思いますので、その辺を活用していただければと思います。

以上です。

○教育長 何かありますか？ そういう特色のある学校は。

指導室長。

○指導室長 中学校はやはりすごく難しいと言われている理由として、どうしても体育科の教員が中心になってやっているということで、まだまだ学校組織で動いていないという弱点がございます。

ただ体力のある程度伸びているところ、やはりもともと部活が強いところというのが、やはりまず率先して一番に出てくる場所でありましてけれども、その体育科の教員が言った内容をどれだけ他教科の教員が協力できるかというところが、やはり2番目に来ることかなと思っています。

そういうところもぜひ、より一層組織として取り組めるようなことを、こちらのほうからも指導してまいりたいと考えています。

○教育長 いかがでしょうか。では私から一つ。

都平均を全学年で超えているものが、一つだけあるのですよね。体重です。これが一番の問題だと思うのですよ。身長が都の平均より低いのに、体重はオーバーしている。

これはそのことに対する対策、どんなことをこれから取り組んでいったらいいか。どうですか。

指導室長。

○指導室長 その部分というのは、今教育長がおっしゃったようなことをまず校長会等で伝えていきます。まずそれを各学校の校長が意識させることによって、本区でも力を入れておりますけれども、体力だけでなく、やはりここには食育の重要性というのをさらに意識していただ

いて、改善を図るべきだということで指導してまいりたいと考えております。

○教育長 よろしくお願ひします。ほかに、いかがでしょうか。

天宮委員。

○天宮委員 子どもたちがみんな、将来スポーツ選手になるわけではないのですから、それよりもやはり何か将来的に必要なのは体幹であったり、全身の持久力であったりするものだと思うのです。

また、特に今の子どもですが、我々の子どものときよりも体温が若干低いのではないですか。ある程度体温が高ければ、免疫力が高くなったりしますからね。そこを何かできるだけ、食事との関係もあるのでしょうかけれども、例えば体温を高くするような取組みを何かしていただきたいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

塚本委員。

○塚本委員 一番大事だと思うのですが、いわゆる生活習慣病を未然に防ぐためにも、この体力向上というのは習慣づけが一番大事だと思うのですね。生活習慣病であり、あるいは小児の糖尿病の問題にしてもしかり。体重等の相関関係でいきますと、やはり我々がある程度介入しながら、方向づけていくのは義務教育だろうと思いますので、教育長がおっしゃったのは、すごくありがたいと思いました。

○教育長 いかがでしょうか。

日高委員。

○日高委員 言い尽くされていますけども、私はやはり中学校の女子というのは課題が多いのかなと感じるのです。体力の合計点もさることながら、非常に落ちている項目が多い。

例えば反復横跳び。これは、瞬発力が低いのだと思うのですよ。

それから、持久走にしても、シャトルランにしても、50メートル走にしても、非常に低いというのは顕著ですから、伸ばす方法はどうすればいいのかということ、もう一度考えなければいけないのではないかなと。

これは教員にとっても、課題を見つける一つの目安になるのではないかと思うのです。女子が非常に劣っている。優れているのは上体起こしぐらいです。上体起こしは確かに東京都を超えているのではないかな。柔軟性はあるのだけれども、瞬間的に行動したり、それから継続して物事を続けていく持久性であるとか、あるいはシャトルランのような繰り返しやっていくという、こういうものを苦手になっている。

やはりこのあたりの課題をもう少し、この表からも明らかですから、やはり各学校でどう解決したらいいのかという、一つの視点にさせていただくといいのかなと思います。

以上です。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 今のお話にもつながるのですが、中学生をはじめ、区民の誰もが、いつでも気軽にボール遊びできる場所が葛飾区にはないように思います。特に中学生にとっては汗をかいて体を動かす場所が、葛飾区内に少ないのではないかと思います。

公園にしても、走り回ると小さい子が危ないのではないかと、要するにいろいろな規制が中学生になってくるとあるようで、クラブ活動をしていない、運動をしていない子もいますから、その子どもたちが日常生活の中で汗をかいて、自由に走り回れる場所が、中学生になると極端になくなってきているのではないかな。そういう環境の問題も大きくあると思うのです。

ですから、教育委員会だけの問題ではないと、僕はいつも思います。例えば児童館に行っても小さな子が遊んでいたら、「走り回っては危ない」と注意されるのは中学生なのです。

スポーツとかクラブをやっていない普通の中学生が、汗を流せる場所を葛飾区として考えていかななくてはならない問題ではないかと私は思います。もし、そういうような連携の打ち合わせがあるときには、ぜひ発言してもらいたいと思いますし、私も努力していきたいと思います。

○教育長 どうですか。その中学生女子の運動ということについて、事務局はどんなことを考えていますか。

指導室長。

○指導室長 そうですね。随分前からになりますけれども、中学生の女子は運動の好きな子と、そうでない子という、いわゆる運動系、文化系に分かれてしまっていて、本当に顕著にあらわれているということは、指導室としても痛感しているところでございます。

閉じこもるとか、家で読書とかゲームとか、そういう屋内でのことだけでなく、やはり体を動かすことの重要性というのはこれからも伝えていかなければなりませんし、指導していかなければならないと考えております。

ただし、生徒に自主的にというのは絶対に無理なことだと思いますので、その辺のところの運動機会を率先してつくれるような環境を、やはり提供していかなければならないと思っています。

その部分につきましては中学校の校長会と連携を図りながら、できるだけ多く確保していきたいと考えています。

以上でございます。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

天宮委員。

○天宮委員 その女子中学生に関してですけれども、過剰なダイエットということをききますが、やはり学校では指導し切れないものですか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 そうですね。過剰なダイエットまで行く場合は、やはり食習慣、朝食をとっているかとか、それから学校での給食をどのように摂取しているかというような状況で、本当にこの子がダイエットのために何も口にしていないというような状況は、まずこちらにも報告が上がってきますし、今のところはそういう報告はございません。

担任が児童・生徒の様子をきちんと把握した上で、きちんと食べているのかどうかぐらいは把握しているところでございますけれども、その子が実際、家で夕飯のときに食べないのかとなりますが、それはやはり日常の健康観察。これではかるしかないかと考えています。

○教育長 よろしいですか。

それでは報告事項等3を終わります。

続きまして、報告事項等4「平成29年度葛飾スタンダードに関する意識調査（第1回）の実施結果について」をお願いします。

指導室長。

○指導室長 それでは、「平成29年度葛飾スタンダードに関する意識調査（第1回）の実施結果について」ご報告させていただきます。「葛飾教師の授業スタンダード」及び「かつしかっ子学習スタイル」の各項目の定着状況について、アンケート調査を実施いたしました。

「葛飾教師の授業スタンダード」につきましては、区内小・中学校の全教員に4段階評価で調査いたしました。

また、「かつしかっ子学習スタイル」につきましては、区内小・中学校の全児童・生徒に2択で調査いたしました。

実施は、平成29年9月25日から29日の1週間です。

「3 結果分析」について、お話しいたします。まず「葛飾教師の授業スタンダード」調査結果でございます。2ページと3ページをごらんください。昨年度に引き続き、小・中学校ともに全項目において、平均値が3を超えました。特に小学校では2ページの1、ねらいを伝える。4、児童・生徒を褒めるの2項目について、小・中学校ともに平均して高い数値となっております。これまで学校訪問や校内研究会、葛小教研、葛中研等の際、葛飾教師の授業スタンダードに基づいた授業改善について、指導を行ってきた成果であると捉えています。また、日ごろからチャレンジ検定等の取組みにおいて、教師が児童・生徒の努力を認め、励ます指導の成果であると捉えています。

一方、中学校の教科間での取組みの差はまだまだ依然として大きいことが課題です。今後も引き続き、学校訪問の際、葛飾教師の授業スタンダードの充実につきましては、より一層の指導を行ってまいります。

次に「かつしかっ子学習スタイル」調査結果でございます。4ページから6ページをごらん



ください。チャイム着席や挨拶などの学習規律に関する項目は8割以上でした。かつしかっ子学習スタイルを各校で教室掲示し、日ごろから教師が指導を粘り強く行っている成果であると捉えております。

課題として、小学校4年生から6年生において、授業前の準備が7割を下回っていることがございますが、小・中学校ともに授業を成立させるという基盤はおおむね整っていると捉えております。

一方、授業でわからないことを聞く、家庭学習に宿題やテストを見直すなどに課題があります。

教員が個々に応じたきめ細かな指導をさらに推進していくとともに、葛飾教師の授業スタンダードをもとにして、児童・生徒が主体的に学習に取り組むことができるように、さらなる授業改善を図っている必要があると考えております。今後の予定でございますが、平成30年1月に意識調査の第2回を実施し、改善の進捗状況を把握してまいります。

説明は以上です。よろしくお願ひいたします。

**○教育長** それではただいまの件について、何かご質問等ございますでしょうか。

日高委員。

**○日高委員** この意識調査の分析ですけれども、これは各学校に配布されますか。

**○指導室長** このまま全ての校長に、校長会で配布する予定でございます。

**○日高委員** ありがとうございます。こうやって見ていただくと、自分の学校は取り組んでいるのか取り組んでないのか、はっきりわかりますね。

やはり私は恥ずかしいと思うのです。区が全体でやろうとしているこの授業スタンダードについての意識が乏しく、余りにもその実践がなされない姿がここに明らかになっている学校が幾つかあるのです。やはりこれは指導する必要があると思うのです。

授業スタンダードはいろいろな面で、ものすごく成果を収めているわけです。活性化されている学校の活動部分もありますし、あるいは子どもが落ちついている、生活指導上に影響が大きいのではないかと思います。

ですから、そういう意味でもこういう分析をぜひ渡して、ただ渡すだけではなく、課題の多い学校にはぜひ「先生しっかり取り組みましょうよ」と、「これ、ちょっとお粗末過ぎますよ」という指摘ぐらいは、やはりしていただいたほうがいいのではないかな。こんなふう感想として持ちました。

以上です。

**○教育長** 指導室長。

**○指導室長** ご指摘ありがとうございます。昨年度につきましても、具体的に2回目の調査の後に、数値が低かった学校の校長には、私のほうから個人的に電話を入れて、指導したところ

でございます。

今回の1回目の調査の結果につきましても、これだけ授業スタンダード、かつしかっ子学習スタイルを推進しておりますので、私は本当に値はまだまだ低いと反省しているところです。今回も、個人的に校長の指導に努め、2回目までにどれだけ改善を図れるかということをご指導してまいりたいと考えております。

○教育長 この調査は、昨年度もやっているのですよね。

○指導室長 やっています。

○教育長 昨年度指導して、改善されていないところあるのではありませんか、どうですか。

○指導室長 実は改善は見られているのですけれども、逆に去年よかったところが落ちているところというのが、正直言ってございます。

○教育長 塚本委員。

○塚本委員 第2回目を30年1月におやりになるということなのですが、今、指導室から各校に応じてお話をされているとのことですね。もうちょっと、例えば改善計画の提示を求めるぐらゐの姿勢があってもいいのかなと思います。

やはり自己判定をされて当然、年次にわたってそういった指導室から勧告ではないのですが、ご指導があったわけですから、そうであれば、こんなところの改善に努めたいのだという意識改革もぜひ現場に落としさせていただきたい。強い意見かもしれませんが、お願いしたいと思います。

○教育長 いかがでしょうか。

齋藤委員。

○齋藤委員 私もいろいろな行事を活用して、区内の学校・幼稚園を40校以上回りましたが、確かにこの結果に出ているように、取組みが進んでいるところと、授業を見てまだ取組み途中なのだなと感じる学校があります。

ただ、校長先生が頑張ろうとしても、学校全体の対応がうまくいかない学校もあるようです。

ぜひやることの意味をしっかりと伝えていただいて、学校の中でもそういうことをきちっと各教員にも理解していただけるように指導することが大事ではないかと思うのですね。

やる意義をしっかりと伝えていただいて、みんなが頑張れるように指導していただきたいと、よろしくお願ひしたいと思います。

○教育長 よろしいでしょうか。

それでは、報告事項等4を終わります。

続いて、報告事項等5「平成29年度中学校連合陸上競技大会の実施結果について」お願ひします。

指導室長。

○指導室長 それでは「平成 29 年度中学校連合陸上競技大会の実施結果について」ご報告させていただきます。

10月3日に中学校連合陸上競技大会が、総合スポーツセンター陸上競技場で開催されました。全校 24 校、男子 420 名、女子 348 名、計 768 名の生徒が参加いたしました。

実施結果につきましては資料のとおりでございます。今年度も全ての種目を無事に終えることができました。総合優勝は立石中学校で、昨年度に続いての優勝となりました。

また各種目で接戦が見られ、五つの大会新記録が出ました。開会式、閉会式、競技中のマナーも大変よく、充実した大会になったところでございます。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長 ただいまの件について、何かございますか。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、報告事項等 5 を終わります。

次、報告事項等 6 「平成 29 年度葛飾区読書感想文コンクールの実施結果について」お願いします。

指導室長。

○指導室長 「平成 29 年度葛飾区読書感想文コンクールの実施結果について」ご説明させていただきます。

ことしは小学校 1 万 7,854 点、中学校 5,763 点の応募がございました。その中から各学校で第一次審査を行い、小学校 290 点、中学校 70 点が学校代表作品として推薦され、さらに葛小教研、葛中研の図書館部の教員による選定委員会にて第二次審査を行い、小学校 18 点、中学校 10 点を入賞といたしました。

あわせて優れた作品を青少年読書感想文全国コンクール東京都地方審査へ推薦いたしました。こちらの入賞発表は年明けの予定でございます。

また、各部門に最優秀賞、優秀賞、佳作をお手元の一覧表のとおり決定いたしました。この 28 名は「広報かつしか」の 12 月 15 日号にお名前を掲載いたします。

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、11 月 20 日月曜日に表彰式を行う予定でございます。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長 それでは、ただいまの説明について、何かご質問等ありますでしょうか。

大里委員。

○大里委員 私は今回表彰式に出席させていただくことになっております。大変楽しみにしております。たしか最優秀賞作品が、「かつしかのきょういく」に載ると思うのですが。

○教育長 指導室長。

○指導室長 昨年は、中学校の部の最優秀賞を掲載いたしました。今年度につきましても、掲載する予定です。

○教育長 大里委員。

○大里委員 ぜひできるだけ多くの児童・生徒さんに読んでもらえるようにできたらいいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告事項等6を終わります。

引き続きまして、報告事項等7「郷土と天文の博物館プラネタリウムの休止について」お願いいたします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長 それでは、報告事項等7「郷土と天文の博物館プラネタリウムの休止について」ご報告させていただきます。

6月の契約締結以来、事業者と定例の打ち合わせですとか、導入機器の実物性能の確認、あるいはスケジュールの確認等をこの間進めてまいりました。いよいよ現場での作業に移るといふこと、それに伴ってプラネタリウムの休止をするものでございます。

具体的には当初の予定どおり、平成29年11月1日から来年、平成30年5月末までを休止を予定してございます。ただし、11月3日の金曜日は博物館祭りを例年開催しておりますので、ここでは利用者の安全確保を図りながら、ミニ番組を上映したいと考えております。

具体的には、本日の星空の解説ですとかプラネタリウムの仕組み、あるいは改修後のプラネタリウムについて、その中で若干説明をしていければと考えているところでございます。

それから、平成30年の2月からになりますけれども、3階のプラネタリウムの向かい側のフロアにございます天文展示室の改修についても着手をしてまいります。

そのため、3階のフロア全体を2月から5月の末まで閉鎖をしていくものでございます。この天文展示室の整備につきましては先週、契約業者が決まりましたので、後日改めて詳細のご報告をさせていただく予定でございます。

なお周知方法でございますけれども、「広報かつしか(10月25日号)」、区及び博物館ホームページへの掲載、それから博物館内でポスターの掲示をしてございます。

また、9月から10月にかけて「アンコール・スペシャル」と銘打ちまして、過去に上映したさまざまなプラネタリウム番組を上映しておりますが、その中でそういうお知らせをし、周知を図っているところでございます。

最後、その他でございますけれども、来年の6月冒頭になると思っておりますけれども、リニューアルオープンの際には、広報課の協力を得ましてマスコミですとか「広報かつしか」の特集記事などを活用することによりまして、大々的に積極的なPRを図っていきたいと考えているところでございます。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

○教育長 それでは報告事項等7について、何かご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告事項等を終了いたします。

ここで、何か各委員からそのほかについて、ご意見等ありましたらお願いします。

特によろしいですか。

それでは、引き続きまして「その他」の事項に入ります。庶務課長、一括して説明をお願いします。

庶務課長。

○庶務課長 それでは、「その他」について3件説明させていただきます。

まず1の資料配布でございます。こちらは4件ございます。まず(1)「11月の行事予定表」、A4両面で配布をさせていただいております。

次に(2)といたしまして「かつしか区民大学情報誌『まなびぷらす』22号」でございます。こちらについては区民大学の講座内容ですとか、それから開催日時等について掲載させていただいているものでございます。

続きまして、(3)「とうきょうの地域教育」129号でございます。こちらについては今回、地域活動協働活動の推進が特集号となっております。

続きまして(4)「葛飾の図書館」、28年度の事業年報でございます。こちらには冊子になってございます。図書館の歩みですとか施設の概要、各サービスの説明、28年度の事業報告等々について、記載をさせていただいているところでございます。

続きまして裏面、「2 出席依頼」については今回は、ございません。また3の「次回以降教育委員会予定」には掲載のとおりでございますので、ごらんおきください。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長 よろしいでしょうか。

それではこれをもちまして、平成29年第9回臨時会を閉会いたします。ありがとうございました。

閉会時刻 11時10分